『学友』を読んでくださっている教育学部生・院生の皆さんへ

(教職生活を終えて、今思うこと)

教友会副会長　福島正美

教友会（埼玉大学教育学部同窓会）終身会員の皆さん、卒業そして入学・進級おめでとうございます。本学部を卒業した者として、この『学友』を読んでくださっている皆さんに、私の今思うことを記します。

◆多くの人と関わり、その関係を卒業後も大切に

まずは、学生のうちに、「できるだけ多くの人と関わり、その関係を卒業後も大切にしていって頂きたい」ということです。多くの人と関わることにより、そこから多くのことを学ぶことができます。これは、学生の間に限らず、大学卒業後も続けていくとよいことであると考えます。

「多くの人（と関わる）」とは、一緒に入学した仲間や同じ学部で学ぶ仲間だけでなく、よき恩師や先輩、他学部の仲間などとの関わりも含めてということです。例えば…

◇「学生以外の人（社会人）」と

大学の教員からたくさんのことを学ぶことはもちろんですが、大学の教員以外の大人との関わりも大切にしたいものです。大学内には、教職大学院生あるいは長期派遣研修教員として派遣された現職の教員もいます。そういった現職教員（社会人）から学ぶ機会も大切にしてください。私が学生の頃は、教職大学院は開設されていませんでしたが、大学四年生で私が所属した研究室には、三名の現職教員が長期研修生として、一年間派遣されていました。ゼミの中で現場の様子を伺う機会を得たり、講義の時に最前列で聴講する姿など、意識の高い三名の現職教員から受けた影響は大きく、教職に就いてからもご指導頂きました。もちろん、アルバイトなどで社会人と関わることも貴重な機会です。

◇「他学部の仲間（学生）」と

せっかくの総合大学です。サークルなどを通して、他学部の仲間との関わりも大切にしたいものです。在学中はもちろん、卒業後も、他学部の教職とは異なる職に就いた仲間との関わりを通して、教員の社会とは異なる他の社会を知ることができました。

◆職場で先輩から、可愛がってもらえる教員に

そしてもう一つは、社会に出たら、「職場で先輩から、可愛がってもらえる教員になって頂きたい」ということです。（教員にならない方は、「教員」を他に読み替えてお読みください。）「可愛がってもらえる」とは、困ったときに「助けて頂ける」、「助言を頂ける」ということです。

私は、昨年度までは現職の教員でした。私自身、教職生活を振り返ってみたときに、たくさんの先輩、同僚、後輩（他大学出身者も含む）にお世話になってきました。「あのとき、あの研修会に参加したから」、「あのとき、あの先生に思い切って声をかけたから」といったことが何度かあり、その結果、よき先輩（同僚、後輩）と出会うことができ、そういった方たちから教え導いて頂いた結果、今の私があると考えます。これは、私に限ったことではありませんし、もちろん教員の世界に限ったことでもないでしょう。その後、教員を指導する立場になったときに、「先輩から多くのことを吸収し、すぐに実践に移せる教員ほど、先輩から可愛がられている」と感じました。

皆さんには、是非そういった教員を目指して頂きたい（教員になって頂きたい）と願っています。

◆残念なこと

本学教育学部の研究紀要（学生の意識調査）によると、学年が上がるにつれ、教員になりたいという学生が減っていくようです。実際に教職に就いてもいないのに、大変残念なことです。

昨年度勤務していた学校で受け入れた教育実習生は、一度社会に出てから教員になりたいと思い、教員免許状を取得しようという人でした。また、新たに採用された教員の中には、民間企業に就職した後も教員になりたいという夢を捨てられず、教員採用試験を再度受験して教員になった人もいました。こういった人たちもいる中で、もったいないことです。

◆結びに

皆さんは、新型コロナウイルス感染症の拡大で大学構内への立ち入りが禁止（制限）され、多くの人と関わる貴重な機会を奪われました。令和四年度は、通常の学生生活に戻れることを願っています。来年度も引き続き教育学部生である皆さん、是非、入学時の思いを忘れることなく、教員になりたいという強い意志と希望をもって学生生活を送ってください。

県内あるいは県外で活躍している（活躍した）多くの「教友会」会員は、これからも埼玉大学教育学部生・院生そして卒業生を応援していきます。